

星
STERNE 1959

引き裂かれた空
DER GETEILTE HIMMEL 1964

僕は19歳だった
ICH WAR NEUNZEHN 1968

太陽を探す人々
SONNENSUCHER 1972

競技場の裸の男
DER NACKTE MANN AUF DEM SPORTPLATZ 1974

ママ、僕は生きてるよ
MAMA, ICH LEBE 1977

ソロシンガー
SOLO SUNNY 1980

分断のさなかに



Konrad WOLF 100

コンラート・ヴォルフ 生誕100年 特集上映

東ドイツ国営の映画製作会社「DEFA」を代表する監督の一人、コンラート・ヴォルフ
国家と歴史の狭間で葛藤し、映画／芸術を探究した稀有な才能を発見する



企画 | 山根恵子
主催 | 広島市映像文化ライブラリー
協力 | DEFA財団 ドイツ・キネマテーク ゲーテ・インスティトゥート東京



競技場の裸の男 撮影中のコンラート・ヴォルフ

提供: DEFA財団



上=ソロ・シンガー 左=引き裂かれた空 右=太陽を探す人々

提供: DEFA財団

Konrad WOLFとは？

ドイツの映画大学や芸術賞にその名を冠された映画監督。あるいは、文化官僚。芸術家と国家の関係について考察した、知識人。平和と正義に憧れ、個人としての幸福を追求し葛藤した時代の記録者。瓦礫まみれの歴史の中で、彼は、幾度も引き裂かれながら生きた。生まれ故郷のドイツと、「祖国」となったソビエト連邦の間で。政治(Politik)と芸術(Kunst)、感情(Gefühl)と規律(Disziplin)の狭間で――。

東ドイツ国営の映画製作会社「DEFA」を代表する映画作家、コンラート・ヴォルフ。生誕100年となる2025年、日本初上映となる4つの作品を含む初めてのレトロスペクティヴが東京と大阪で開催された。

東西に分断された冷戦期のドイツに生まれた作品の数々は、新たな分断が加速する現在の世界をいかに照射するのか？



僕は19歳だった

提供: DEFA財団

2026年4月24日(金)～5月10日(日)

※金土日のみ上映

	11:00	14:30	18:30
4/24(金)	『星』*開会式あり	『引き裂かれた空』	『僕は19歳だった』
4/25(土)	『引き裂かれた空』	『星』*上映後講演あり	
4/26(日)	『星』	『引き裂かれた空』	
5/1(金)	『太陽を探す人々』	『競技場の裸の男』	『ママ、僕は生きてるよ』
5/2(土)	『僕は19歳だった』	『太陽を探す人々』	
5/3(日・祝)	『太陽を探す人々』	『僕は19歳だった』	
5/8(金)	『競技場の裸の男』	『ママ、僕は生きてるよ』	『ソロシンガー』
5/9(土)	『ママ、僕は生きてるよ』	『ソロシンガー』	
5/10(日)	『ソロシンガー』	『競技場の裸の男』	

料 大人: 380円 / シニア(65歳以上)、高校生: 180円 / 4/25(土)14:30『星』上映後講演「コンラート・ヴォルフ監督について」(30分) ゲスト: 山根恵子さん
金 小中学生: 無料 / ※土曜日は高校生無料 (法政大学名誉教授、「DEFA劇映画大事典 東ドイツ製作劇映画の全記録 1946年～1993年」監訳者)

広島市映像文化ライブラリー 広島市南区松原町9-1エールエールA館10階 / TEL: 082-298-0551

コンラート・ヴォルフ
Konrad WOLF

1925年10月20日ヘッピンゲン(ヴュルテンベルク州)生まれ。父フリードリヒはユダヤ系の医者で作家。また、コンラートの2歳年上の兄マルクスは長年にわたり東ドイツの国際秘密情報機関(シュタージ)の幹部であった。1933年、一家はモスクワに亡命。翌年からコンラートは現地のカール・リープクネヒト校に通い、1936年にソ連国籍を取得する。映画好きな少年であった彼は、ドイツ人グスタフ・フォン・ヴァンゲンハイム監督の作品『DER KÄMPFER』(36)に出演。1942年12月、高校9年級を終えて間もなく徴兵され、軍務局の翻訳通訳部に配属される。第二次大戦末には少尉としてドイツに進軍、ザクセンハウゼン強制収容所の解放に参加し、その功績を讃える勲章をソ連政府より受ける。戦後も引き続きソ連軍に所属、「ベルリン新聞」特派員として東ベルリンに駐在した後、ハレ市の文化担当官となり報道や出版等の検閲に携わる。1946年12月陸軍中尉として退官、1948年までソ連宣伝省の教育・青少年・スポーツ担当官を務める。1949年に全ソ国立映画大学(WGIK現「全ロシア映画大学」)に入学し、ミハイル・ロムやセルゲイ・ゲラシモフ等に師事。1952年2月に東ドイツ国籍を取得、SED(ドイツ社会主義統一党)党员となる。1953年にクルト・メーツイヒ監督の助手として実習し、1954年にWGIKを卒業、デーファ劇場映画スタジオに招聘される。映画監督デビューは1956年の『GENESUNG(回復)』(ダマスカス国際映画祭銅賞)。続く『LISSY(リッシー)』(57、カルロヴィ・ヴェリ国際映画祭グランプリ)、『星』(59、カナヌ国際映画祭審査員特別賞)、さらに父フリードリヒ・ヴォルフ作の戯曲を映画化した『PROFESSOR MAMLOCK(マムロック教授)』(61、モスクワ国際映画祭金賞)、『僕は19歳だった』(68)、『ママ、僕は生きてるよ』(77)等、コンラート・ヴォルフには第二次大戦やユダヤ人をテーマにした名作が多く見られる。その他、代表作として『引き裂かれた空』(64)、『GOYA(情熱の生涯 ゴヤ)』(71、モスクワ国際映画祭審査員特別賞)、『ソロシンガー』(80、ベルリン国際映画祭銀熊賞)等が挙げられる。1982年3月7日、東ベルリン没。

上映作品紹介

星

STERNE

1959 (DEFA) / ソフィア劇場映画スタジオ / モノクロ / 92分 / DCP
監督: コンラート・ヴォルフ / 脚本: アンジェルフ・ファゲシュテイン、ヴェイリ・ブリュクナー / 撮影: ヴェルナー・ベルクマン、ハンス・ハインリヒ / 音楽: シメオン・ピロンコフ / 出演: サシャ・クルシヤルスカ(ルード)、ユルゲン・フロリープ(ゲアルター)、エリック・S・クライン(カルト)ほか

アウシユビッツに移送されるユダヤ人女性とドイツ人下士官の出会いと別れ

東独・ブルガリア合作。タイトルは第二次大戦中ユダヤ人が身に付けるように強制された「ダビデの星」を暗示する。脚本のアンジェルフ・ファゲシュテインは、若い抵抗運動闘士の視点からその「思い出」を描いた。1959年のカナヌ国際映画祭にブルガリア映画として出品し、審査員特別賞を受賞。1995年には「最も重要なドイツ映画100選」に選出された。

*1959年カナヌ国際映画祭審査員特別賞受賞
*1959年ウィーン(世界青少年平和友好祭)国際映画祭金賞受賞
*1959年エディンバラ国際映画祭特別表彰状受賞

引き裂かれた空

DER GETEILTE HIMMEL

1964 (DEFA) / モノクロ / 114分 / DCP
監督: コンラート・ヴォルフ / 脚本: クリスタ・ヴォルフ、ゲアルルト・ヴォルフ、コンラート・ヴォルフ、ヴェイリ・ブリュクナー、クルト・バルテル / 原作: クリスタ・ヴォルフ / 撮影: ヴェルナー・ベルクマン / 音楽: ハンス・デイター・ホサラ / 出演: レナーテ・ブルメ(リタ)、エーベルハルト・エツシエ(マンフレート)、ハンス・ハルト(ハルトロフ(メーターナゲル)ほか)

東西ベルリンの分断を象徴するラブストーリー

東ドイツを代表する女性作家クリスタ・ヴォルフが1963年に発表した同名ベストセラー小説を映像化。1964年のカルロヴィ・ヴアリ国際映画祭で公開された後、西ドイツ各地の映画館で上映。東ドイツでは封切り直後に禁止され、1982年ようやくテレビ放映が実現した。1961年8月に建設された「ベルリンの壁」が、隠喩として描かれる。

僕は19歳だった

ICH WAR NEUNZEHN

1968 (DEFA) / モノクロ / 119分 / DCP
監督: コンラート・ヴォルフ / 脚本: カール・ゲオルク・エーゲル、パウエル・ウーインス、ゲアルルト・ヴォルフ / 撮影: ヴェルナー・ベルクマン / 出演: ジェッキ・シュヴァルツ(レネ)、ワシリー・リヴァノフ(ヴァディム)、アレクセイ・エポシエンコ(サージセ)ほか

19歳でソ連兵としてドイツを訪れたヴォルフの自伝的作品

1945年4月半ばから5月初め、終戦間近のドイツに敵軍として送られた若い少尉の複雑な気持ちを日記風に描く。歴史的事実をモノクロ映像で再現。自由で自然なカメラワークは、ロベルト・ロッセリーニ『無防備都市』(45)を想起させる。デーファ製作のドキュメンタリー『Todeslager Sachsenhausen(死の収容所ザクセンハウゼン)』(46、リヒャルト・ブランド監督)の処刑執行人へのインタビューが引用されている。

故郷、祖国、政治、芸術、感情、規律の狭間で



太陽を探す人々 SONNENSUCHER 提供: DEFA財団

太陽を探す人々

SOMNENSUCHER

1972 (DEFA) / モノクロ / 116分 / DCP
監督: コンラート・ヴォルフ / 脚本: ヴォルガング・コルハーゼ、コンラート・ヴォルフ、ヴェイリ・ブリュクナー / 撮影: ヴェルナー・ベルクマン / 音楽: ヨアヒム・ヴェルツラウ / 出演: ウルリケ・ゲルマー(ルッツ)、ギュンター・ジーモン(フランツ)、エルヴィン・ゲシヨネック(ニップ)ほか

戦後ドイツの混乱期に復興を目指してたくましく生きる人々の姿

戦後ドイツの混乱期にたくましく生きる人々の姿。第二次大戦直後、ソ連と東ドイツが共同経営するウラン採掘鉱山「ピスマス」で働く労働者達の日常と労苦を描く。ファシストだった過去を持つドイツ人現場監督と妻をナチスに殺されたロシア人技術者。身寄りの無い娘ルッツと母親代りの娼婦エミ。脚本の修正や撮り直しを繰り返しながら、ようやく完成したものの上映中止を余儀なくされた。エーリヒ・ホーネッカー政権下の1972年に東ドイツで劇場公開が叶った。

競技場の裸の男

DER NACKTE MANN AUF DEM SPORTPLATZ

1974 (DEFA) / カラー / 101分 / DCP
監督: コンラート・ヴォルフ / 脚本: ヴォルガング・コルハーゼ、ゲアルルト・ヴォルフ / 撮影: ヴェルナー・ベルクマン / 出演: クルト・ベウヴェ(ケンメル)、ウルズラ・カルサイト(キジ・ケンメル)、マルティン・トレッタウ(ハネネス)、エルザ・グルーベ(ダイスター(農業生産組合理事長)ほか)

社会主義における芸術家の存在意義を問うける悲喜劇

40歳の誕生日を迎えた、彫刻家の主人公ケンメル。労働者たちや家族、友人など周囲の人々との関係の中で、自身の仕事に自問する日々を送る。ユーモアを含む会話の端々に現れる、繊細なキャラクター造形。静かな余韻を感じさせる描写の中に、イデオロギーをめぐる芸術家のジレンマが浮き彫りになる。

ママ、僕は生きてるよ

MAMA, ICH LEBE

1977 (DEFA) / カラー / 103分 / DCP
監督: コンラート・ヴォルフ / 脚本: ヴォルガング・コルハーゼ、ヴォルフガング・ベック、ギュンター・クライン、クラウス・ウイシユネフスキ、ディーター・ヴォルフ / 撮影: ヴェルナー・ベルクマン / 音楽: ライナー・ベーム / 出演: ベーター・プラーガー(ベッカー)、ウーヴェ・ツェルベ(パニコニ)、エーベルハルト・キルヒベルク(ラレフスキ)ほか

自国兵の反ナチ化に携わるドイツ人捕虜たちの戸惑いと苦悩を描く

ドイツ国防軍の兵士達が敵軍に協力する、という物語を描く本作。ヴォルフガング・コルハーゼが放送劇として書いた脚本に、実際の戦争体験者や証人達との対話を加筆して1本の映画にまとめ上げた。タイトルは、ソ連軍の捕虜として生き延びたドイツ兵が故郷の家族に宛てた「戦地便り」のメモに由来する。ヴォルフが自身の体験に基づいて制作した『僕は19歳だった』と対をなす作品。

ソロシンガー

SOLO SUNNY

1980 (DEFA) / カラー / 104分 / DCP
監督: コンラート・ヴォルフ / 脚本: ヴォルガング・コルハーゼ / 脚本: ヴォルガング・コルハーゼ、ディーター・ヴォルフ / 撮影: エーベルハルト・ガイク / 音楽: ギュンター・フィッシャー / 出演: レナーテ・クレスナー(サニ)、アレクサンダー・ラング(ラルフ)、ハイド・キップ(クリスティーネ)、ディーター・モンターク(ハリー)、クラウス・ブラシュ(フルベルト)ほか

愛を求めて前向きに生きる自立した女性の物語

1970年代のベルリン、ブレンツラウアーベルク地区出身の歌手サニーは、小さなバンドと共に巡業公演しながら、いつかソロデビューすることを夢見ている。恋愛に苛まれ、友情に救われながら、人生を築く彼女。そのドラマを東ドイツ産ポップスが彩る。ヴォルフガング・コルハーゼと共同監督した、ヴォルフ最後の劇場映画作品。主題歌は大ヒットし、衣装や小道具などはポツダム映画博物館に常設展示されている。

*1980年ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞
*1980年シカゴ国際映画祭金メダル受賞



星 STERNE 提供: DEFA財団



引き裂かれた空 DER GETEILTE HIMMEL 提供: DEFA財団



僕は19歳だった ICH WAR NEUNZEHN 提供: DEFA財団



ソロシンガー SOLO SUNNY 提供: DEFA財団